

ボランティア活動の原点は昭和63年に地域活動団体の協力で「ひよどり台住民福祉協議会」が設立され、連合自治会、婦人会、民児協、生協の福祉部等のメンバーで月1回の福祉相談日を設けて、地域住民の課題に対応したことに始まります。

高齢化社会、障害者問題に対応するため「独居老人への給食サービス」を目標として独居老人の調査に着手しました。その後もっと福祉に関して勉強をしようと平成4年に福祉学級を開設し、40数名が福祉施設の見学や学習を深め「地域の人は、地域の人で支えていきましょう」をモットーとして地域の人に呼びかけました。平成6年6月から月1回の福祉相談日を週1回に増やし、毎週月曜日にエポックで相談を受け付け、初年度は56件ほどの相談がありました。

経済支援、日常生活支援、介助支援、通院、買い物、公的サービス援助相談等多岐にわたり、行政または市議と相談し解決の道を探りました。具体的なボランティア活動はふれあい給食、配食サービス、しあわせの村の施設（神港園、ワークホーム明友、ひよどり台ホーム）での手伝いボランティア、友愛訪問、日常支援、福祉相談等でした。

平成7年の阪神大震災の際には仮設住宅（508戸）入居被災者へのしあわせの村からの援助物資の配布、相談窓口を開設しての対応等、その後数年間仮設住宅解消まで見守り活動をつづけ、その後シルバーハイツに引き継がれました。

平成8年7月15日「ひよどり台ふれあいのまちづくり協議会」結成に伴いひよどり台住民福祉協議会は発展的に解消、ボランティアグループは「ふれあいのまちづくり協議会福祉部ボランティアグループ」として現在に至っています。

平成13年（2001）地域福祉について全所帯にアンケートを行い、その結果、公的な制度だけでは十分な支援が得られない点が課題となりました。不足する部分を補う地域のボランティア活動「ちょボラ」の受付のため地域福祉センターにボランティア事務局の設置を検討することになりました。今はまだ活動できないが、将来はボランティア活動に参加したいという方々が予想以上に多数あり、これからの広がりが期待されます。

平成14年（2002）ボランティア事務局設置「させて頂く、してもらう人」を毎日受け付けています。

（休館日を除く）

平成15年（2003）福祉相談、よろず相談を「ちょボラ」としてPRをする。ふれあいのまちづくり協議会に「環境対策部会」としてエコタウンクラブがボランティアグループに加わりました。

平成16年（2004）ボランティアの集いにおいて見守る会の発足提案が承認され「ひよどり台小学校子どもたちを見守る会」が9月に活動を開始し、ボランティアグループに加わりました。

はじめよう！ あなたも「ちょボラ」 できることから ちよっとだけ
いそがしいから ちよっとだけ 隣近所で支えあいましょう
あなたの「ちょボラ」が 住みよいひよどり台をつくれます
「ふれあいのまちづくり協議会福祉部ボランティアグループ」に参加を！！

現在、19グループ、315 名が活躍しています。